

10月は蒙古の歴史講和

成和会 10月例会が16日、いつものホテルクドウで開催されました。

冒頭、会長が約10年務められた大堀敬直さん（大10回）から山口勇さん（大10回）に交代したことが報告されました。

講演は大堀さんが講師で、蒙古襲来を中心に当時のモンゴルと鎌倉幕府について研究してこられた成果を話されました。

テムジンが1206年にチンギスハンとなって以来僅か50年余で中国に元王朝を建て、蒙古軍が遠く東欧のハンガリー、ポーランドまで遠征して40以上の国を滅ぼした強さの源泉、しかし早くも1368年にはあっけなく元から退散しモンゴルにもどってしまう蒙古帝国の短い歴史等、大堀さんが興味を持って研究された内容に聞く側も引きこまれました。その間にあった日本への蒙古襲来、1274年の文永の役と1281年の弘安の役で日本が勝利したのは天候に加えて鎌倉幕府の総力を挙げた防御策と武士の勇猛果敢な戦闘によるものであり、第二次大戦で聞かされた神風史観はもう一度みなおすべきだということも印象に残りました。

仕事を離れて何かの研究に没頭しそれをまとめる生き方の例を見せていただきました。

成和会令和元年10月例会講演会

令和元年10月16日（水）
講師：大堀 敬直

*はじめに

- 1 モンゴル・中国
(金・宋・高麗)
- 2 蒙古襲来
(文永の役・弘安の役)
- 3 鎌倉幕府